

平成22（2010）年度
東京大学大学院学際情報学府学際情報学専攻
修士課程（社会情報学コース・一般選抜）
入学試験問題
専 門 科 目

（平成21年8月24日 14：00～16：00）

試験開始の合図があるまで問題冊子を開いてはいけません。開始の合図があるまで、下記の注意事項をよく読んでください。

1. 本冊子は、社会情報学コース・一般選抜の受験者のためのものである。
2. 本冊子の本文は7ページである。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などがあった場合には申し出ること。
3. 解答用紙は3枚ある。問題ごとに解答用紙1枚を使用すること。なお、解答用紙のみが採点の対象となる。
4. 解答用紙の上方の欄に、問題の番号（例：「第1問」）、選択記号がある場合にはその記号（例：「第2問A」）及び受験番号を必ず記入すること。問題番号、選択記号及び受験番号を記入していない答案は無効とする。
5. 解答には必ず黒色鉛筆（または黒色シャープペンシル）を使用すること。
6. 解答は日本語によるものとする。
7. 試験開始後は、中途退場を認めない。
8. 本冊子、解答用紙は持ち帰ってはならない。
9. メモ用紙に受験番号を記入すること。メモ用紙は持ち帰らないこと。なおメモは採点の対象にはならない。
10. 次の欄に受験番号と氏名を記入せよ。

受験番号	
氏 名	

社会情報学（一般選抜） 第1問

次の英文は1927年に米国のジャーナリスト Walter Lippmann によって書かれたものである。よく読んで、以下の問いに日本語で答えなさい。

The private citizen today has come to feel rather like ①a deaf spectator in the back row, who ought to keep his mind on the mystery off there, but cannot quite manage to keep awake. He knows he is somehow affected by what is going on. Rules and regulations continually, taxes annually and wars occasionally remind him that he is being swept along by great drifts of circumstance.

Yet these public affairs are in no convincing way his affairs. They are for the most part invisible. They are managed, if they are managed at all, at distant centers, from behind the scenes, by unnamed powers. As a private person he does not know for certain what is going on, or who is doing it, or where he is being carried. No newspaper reports his environment so that he can grasp it; no school has taught him how to imagine it; his ideals, often, do not fit with it; listening to speeches, uttering opinions and voting do not, he finds, enable him to govern it. He lives in a world which he cannot see, does not understand and is unable to direct.

In the cold light of experience he knows that his sovereignty is a fiction. ②He reigns in theory, but in fact he does not govern. Contemplating himself and his actual accomplishments in public affairs, contrasting the influence he exerts with the influence he is supposed according to democratic theory to exert, he must say of his sovereignty what Bismarck said of Napoleon III.: “At a distance it is something, but close to it is nothing at all.”

出典 Walter Lippmann. *The Phantom Public*. (1993 by Transaction Publishers. Originally published in 1927 by The Macmillan Company.)

- (1) 下線部①「a deaf spectator in the back row」という状態について、あなたの周りで観察される具体的な例を挙げて200字程度で説明しなさい。
- (2) 下線部②について、「reign」と「govern」の違いを本文に即して400字程度で説明しなさい。
- (3) 2009年現在の状況は、当時（1927年）と比較してどうだろうか。本文におけるLippmannの問題意識を説明した上で、あなたの意見を「情報化」「ネット社会」「デジタル化」などの現象と関連付けて800字程度で述べなさい。その際、時代および地域による社会的・文化的差異を考慮して論じなさい。

社会情報学（一般選抜） 第2問

以下の（A）から（F）までの中から1問を選択し、選択した問題の記号を解答用紙に明記の上、答えなさい。

- （A）近年、情報通信技術の発達の下で、著作権の保護のあり方をめぐって議論が行われている。
- （1）著作権制度の意義を、400字程度で述べなさい。
 - （2）インターネット上での著作権侵害について争われた裁判例を、400字程度で説明しなさい。
 - （3）（2）で挙げた裁判例について、あなたが望ましいと考える解決のあり方とその根拠について、800字程度で述べなさい。
- （B）マスメディアの報道はしばしば発表ジャーナリズムと批判されてきた。これについて以下の問いに答えなさい。
- （1）発表ジャーナリズムとは何か、具体例を挙げつつ、400字程度で論じなさい。
 - （2）発表ジャーナリズムが生まれる背景や要因について、600字程度で論じなさい。
 - （3）発表ジャーナリズムを克服するための取り組みを挙げて、その実効性や問題点について、600字程度で論じなさい。
- （C）国際政治学において、バランス・オブ・パワー（勢力均衡）という用語は、複数の異なった意味で用いられる。それらの用法を明確に分類し、それぞれについて具体的な歴史的事例や批判などを挙げながら、1600字程度で説明しなさい。
- （D）図（A,B）は、上位0.1%の所得階層の所得総額が全階層の所得総額に占める割合の推移を、5カ国（アメリカ合衆国、カナダ、フランス、イギリス、日本）に分けて示したものである。これらの図を参照して、次の問いに答えなさい。
- （1）図Aでプロットされている国では、1980年代以降に当該割合が右上がりとなっている。このようにトレンドが大きく変化した背景を説明しなさい。
(800字)
 - （2）図Bでプロットされる国々においても、近年、当該割合が右上がりのトレンドになりつつあるとの指摘がある。なぜ、近年、そのような変化が生じているのか説明しなさい。(400字)

- (3) いわゆるサブプライムローン問題に端を発する今回の急激な景気後退は、このようなトレンドにいかなる影響を与えると考えるか。「政府支出」という語句を用いてあなたの考えを説明しなさい。(400字)

下記出典の図を掲載しています。

(出典 : Piketty, T. and E. Saez (2006), “The Evolution of Top Incomes: A Historical and International Perspective,” *American Economic Review*, vol.96, no.2, pp.200-205, Figure 3 を転載)

(E) 次の(甲)と(乙)の文章を読んで(1)から(4)までの問いに答えなさい。

(甲) 以下は、ダットンとアロン (D. Dutton & A. Aron) が 1974 年に報告した「つり橋実験」の概要である。

橋を渡っている男性にインタビュアーが近づき、「景観が創作に与える影響に関する心理学的研究への協力」という名目でいくつかの質問をした。その後、図を見て短い物語を創作させ、潜在する欲求を分析するテスト (TAT: 主題統覚検査) を行ない、また、「実験の詳しい説明が聞きたければ電話をかけてくれ」と伝えて名前と電話番号のメモを渡した。被験者とされた男性が渡っていた橋は、a 群が「ぐらぐら揺れるつり橋」、b 群が「揺れない堅牢な木製の橋」であった。その結果、インタビュアーが女性であった場合、b 群の木製橋条件より、a 群のつり橋条件の被験者において、彼が後に女性に電話をかける率が高く、また TAT による「性的イメージ得点」も高かった。

(乙) フェスティンガー (L. Festinger, *A Theory of Cognitive Dissonance* [1957]) は、プラサド (J. Prasad) の 1950 年論文やシンハ (D. Shinha) の 1952 年論文で紹介された流言の内容を検討したところ、大災害の発生時に、被害が甚大であった地域よりも、むしろ被害が軽微であった周辺地域の方において、「大きな地震が再発する」等の不安に満ちた流言が高密度で流布することを見いだした。

(1) (甲)で記述された結果について、①実験者らはどのように解釈したか。②また、なぜそのような結果になったと考えたか。「原因帰属」という観点から、①②合わせて 400 字程度で説明しなさい。

(2) (乙)で記述された内容について、フェスティンガーは「認知的不協和」という観点から解釈した。彼の解釈はどのようなものだったか、300 字程度で記述しなさい。

(3) (乙)の現象を、(1)の解答と同じメカニズムによって 200 字程度で説明しなさい。

(4) 2009 年 5 月、「新型インフルエンザ」の発生が確認されると、マスメディアによって多くの報道がなされ、感染が拡大する以前から、日本人の日常会話でもそれが頻繁に話題とされた。

① 一部で過剰とも評されたこの反応を、経済不況の現状とも合わせ鑑み、(1)(3)と同様のメカニズムから 300 字程度で説明しなさい。

② また、(乙)で述べられたような種類の知見が妥当すれば、日本人のどのような社会的属性要因をもつ人々において、より新型インフルエンザが話題にされやすいという仮説がなりたつか、その論理も含め 200 字程度で述べなさい。

③ さらに、その仮説に対するあなたの考えを 200 字程度で述べなさい。

(F) 権力について述べられた (ア) (イ) (ウ) の文章 (和訳されたもの。ただし一部表記を変更している) を読み、後の問いに答えなさい。

- (ア) 「権力」とは、或る社会的関係の内部で抵抗を排してまで自己の意志を貫徹するすべての可能性を意味し、この可能性が何に基づくかは問うところではない。
- (イ) 規律・訓練の行使は、視線の作用によって強制を加える仕組みを前提としている。見ることを可能にする技術によって、権力の効果が生じる装置、しかも逆に、強制権の諸手段によって、それらが適用される当の人々がはっきり可視的になる装置を前提とするのである。
- (ウ) 権力は、すでに存在している意志を道具として用いるのではない。権力は、この意志をはじめて産み出すのであり、しかもこの意志を義務づけ、拘束し、これに危険と不確実性を吸収させることができるのであり、そのうえ、この意志をそそのかしたり、挫折させたりすることすらできるのである。(中略) 権力行使にともなう動機を確定するのは、あくまでコミュニケーション過程である。

- (1) (ア) (イ) (ウ) の文章の著者名を下の選択肢から選び記号で答えなさい。
- (a) Jürgen Habermas (b) Niklas Luhmann (c) Michel Foucault
(d) Émile Durkheim (e) Max Weber (f) Pierre Bourdieu
(g) Anthony Giddens
- (2) 下線部「見ることを可能にする技術によって、権力の効果が生じる装置、しかも逆に、強制権の諸手段によって、それらが適用される当の人々がはっきり可視的になる装置」とはどのようなものか。400字程度で説明しなさい。
- (3) (ア) (イ) (ウ) で述べられている「権力」概念の異同を、具体的な権力関係、権力行使の状況の事例を挙げながら、1000字程度で説明しなさい。

※この問題文における(ア)～(ウ)の文章は、以下の文献から引用しました(出題の関係上、表現を変えている部分があります)

(ア)マックス・ヴェーバー(清水幾太郎訳)『社会学の根本概念』岩波文庫、一九七二年。

(イ)ミシェル・フーコー(田村椒訳)『監獄の誕生 監視と処罰』新潮社、一九七七年。

(ウ)ニクラス・ルーマン(長岡克行訳)『権力』勁草書房、一九八六年。

社会情報学（一般選抜） 第3問

以下の(a)から(f)までの6つの群から一つの群のみを選択し、選択した群のアルファベット記号（(a)～(f)）を解答用紙に明記の上、その群に列記されている5つの用語のうち3つを選択して、選択した3つの用語の意味を、そのカナ記号（(ア)～(オ)）を記して、それぞれ400字程度で説明しなさい。

- (a) (ア) 自己決定権
(イ) 名誉毀損による出版差止め
(ウ) 放送の規制根拠
(エ) 秘密漏示罪
(オ) 迷惑メールに対する法的規制

- (b) (ア) ジョン・フィスク (John Fiske)
(イ) アントニオ・グラムシ (Antonio Gramsci) のヘゲモニー論
(ウ) 客観主義報道
(エ) 鶴見俊輔の限界芸術論
(オ) アルジャジーラ (Al Jazeera)

- (c) (ア) ネオ・コーポラティズム (neo-corporatism)
(イ) 政治的景気循環 (political business cycle)
(ウ) 凍結仮説 (freezing hypothesis)
(エ) ワッセナー協約 (Wassenaar Arrangement)
(オ) 民主主義による平和 (democratic peace)

- (d) (ア) 非自発的失業
(イ) 流動性の罫
(ウ) 世界銀行
(エ) BRICs
(オ) ネットワーク中立性

- (e) (ア) マスメディアの効果に関する「弾丸理論 (bullet theory)」
(イ) サブリミナル効果
(ウ) マズロー (A. Maslow) の欲求段階説
(エ) 擬似相関
(オ) 日常言語学派

- (f) (ア) 国民国家 (nation-state)
- (イ) 社会的事実 (fait social)
- (ウ) 自己成就的予言 (self-fulfilling prophecy)
- (エ) フランクフルト学派
- (オ) 多元的現実 (multiple realities)